

上川盆地の生い立ち

ほっかいどう こうぞうくぶん

## 北海道の構造区分

常設展示室

～北海道の素顔～



北海道の構造区分については、対象や着眼点の違いによって、様々に分類されています。

展示室で表現されている区分は、中生界の分布をもとにして西から「渡島帯」、「礼文－樺戸帯」、「空知－エゾ帯」、「日高帯」、「常呂帯」、「根室帯」に分けています。

こうして見ますと、ほぼ南北に連なる帯状配列が明瞭で、海洋プレートの陸側沈み込みに関係していると考えられます。

また、新生界の構造区分の特徴としての新第三紀堆積盆の分化は、千島弧の形成の結果を反映しているものと考えられます。

更に、地質構成上の特徴を大まかにとらえたものとして、北海道西部・北海道中央部・北海道東部の三区分にも分けられています。

上川盆地は、空知－エゾ帯に含まれ、それらは更にメランジェ・コンプレックス、空知層群、蝦夷累層群、日高累層群など中生代の地層で構成されています。地質展示の中央部の昇降模型で上川盆地の地下構造を確認してみるのはいかがでしょうか。（地質学・岩石学担当学芸員 向井正幸）